

	<h1>みずみどり</h1>
<p>2003年1月15日 第34号</p>	
<p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p>	
<p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会</p>	
<p>http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/</p>	
<p>E-mail : mizumidori@nifty.com</p>	
<p>〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>	

2003年自然回復 事始め



新年会のおしらせ

新年にあたり、2003年の展望・やりたいことをゆっくり話しあいましょう。

行事に参加したことがない人も、もちろん会員でない方も歓迎です。城址にできたバッタ広場の今後についても話し合います。

なお、午前中に当会の島井先生が講師をされる板橋区の野外講座があります。まだ参加申し込みされていない方は環境保全課にお問い合わせ下さい。

記

- 1 日時： 1月26日(日) 13:00~16:00
- 2 会場： 四葉集会所(四葉2丁目9)(新高島平駅と下赤塚駅間の不便なところ。場所がわからない方は坂本まで)
- 3 持ってくる物：会費1000円(お寿司代) 名札(あなたの名前がわからない人のために)
- 4 申し込み：瀬田3969 7124、または坂本090-4628-1295まで

自然回復ボランティア活動講座第4回「崖線の緑を診断する」

日時：1月26日(日) 9:30~12:00

集合場所：高島平区民館集会室(三田線高島平駅から徒歩5分)

内容：講義のあと、赤塚公園(徳丸7、8丁目)の崖の自然をテーマとした観察会です。

島井先生の説明を聞きながら、赤塚城址とまた違った崖の様子を勉強するのも、おもしろいのでは。

ビオトープのザリガニ駆除に明け暮れた2002年

赤塚溜め池公園内のトンボ池の管理に携わってみて、アメリカザリガニの繁殖力のすさまじさに、ただ驚くばかり。会員のみなさんと一緒に春から秋にかけて、月2回のペースで捕獲しましたが、なんと1800匹。なにか良い知恵はないのでしょうか。

アメリカザリガニは、乗蓮寺下のミニトンボ池、徳丸が原公園の池ともに、繁殖しているようです。根気よく捕獲するしか方法がないのかも。2003年、今年も気合いが入ります。

アメリカザリガニは1930年頃食用ガエルのエサとして移入されたとのことですが、今では全国制覇をなしとげている始末です。

それに引き替え、ニッポンザリガニはどこにいったのでしょうか。秋田県ではニッポンザリガニを県の天然記念物に指定しているようですが、今では貴重な存在のようです。今年も駆除にみなさんのご協力をお願いいたします。(森 輝夫)

ザリガニ捕獲数

年月日	赤塚トンボ池		乗蓮寺池		水路		備考
	ザリガニ	その他	ザリガニ	その他	ザリガニ	その他	
2001/5/13	400	ウシガエル(2)、コイ(7)、キンギョ(7)、ハラブナ(1)、モツゴ・メダカ・タモロコシ多					かいぼり
2001/8/26	38						
2001/9/9	50						
2001/10/14	54						
2001/12/16	34	ミシシビイロカミガメ					
2002/2/17	425						箱舟の中
合計	1001						
2002/5/13	401						
2002/6/8	400						
2002/6/13	230						広報でPR
2002/6/21	46		6	キンギョ1			
2002/7/8	153						
2002/7/17	20						ヒシ植栽
2002/7/22	180		18				
2002/7/28	125		11				
2002/8/30	126		0				
2002/9/29	128		19		8		
合計	1809		54		8		

赤塚トンボ池の自然を考える

清掃と生物調査(12月15日)・自然回復ボランティア活動講座「トンボ池をつくったら何がかかったか」(講師:釣巻さん)(11月17日)の報告他

12月15日(日)水路の落ち葉の掃除と、落ち葉の下の生物調査をしました。水路に落ち葉が積もると流れが悪くなり、水圧で湧水は下に抜けて池に流入する水が減り、水位が下がります。それも自然現象ですが、少し落ち葉を横にどかしてやります。

落ち葉の下にいる生き物を探しました。いたのはスジエビ多数、小さめのザリガニ、ミズムシが1,2匹、カワナナも割合多く見つかりました。オニヤンマやヘビトンボのヤゴは見あたりません。見た感じと違って、生物相は非常に単純で貧弱。2種の生物だけがたくさん見つかること自体が不自然です。

1ヶ月前の11月17日(日)板橋区の自然回復ボランティア活動講座で釣巻さんによる野外講座がありました。テーマは「トンボ池をつくったら何が起こったか」。のっけに「結論から言うと小さな池が一つ出来ても何も変わらない」でした(ガクッ)

そうはいうものの小さな池を見続けることにより、いろいろなことが見えてきたし、学んだ。

箱舟にマルタンヤンマが産卵し羽化した。マルタンヤンマは移動性の高いトンボで、この池から飛び立って後、次の水たまりと相手を見つけて産卵し、子孫を残す可能性となるとほとんどない。一つしかない池には限界があるのです。

もうひとつの例。オオアオイトトンボが池裏の斜面林にいる。このトンボは、池に張り出した枝に産卵する(枝も邪魔にはしてはいけないのだ)。成虫の行動範囲は非常に狭く、水辺近くの林から外に出ない。マルタンヤンマの逆ですね。こんな水辺でオオアオイトトンボがずーっと生息し続けてきたことは不思議ですが、生息に欠かせない樹林地がひとつの環境をつくっているのですね。

この二種類のトンボの話からも、池だけを切り離して自然を云々することはできない、と納得しました。林も草原も大切な要素だということです。

ピオトープは住民参加でつくったが、管理はむずかしい。水際の枝を切るにも、良い影響と悪い影響がある。当初環境保全課で水草を買って植えたが、この場所に元々生えていた種(遺伝子)の視点がなく安易な判断だったと思う(反省しています)。また乗蓮寺下のピオトープをつくった年にクロスジギンヤンマが150頭羽化し、私達は喜んだが、自然の池としては異常な数で、新しい環境ができて競争相手がいなかったための現象と思う。

この場所を見続けることで仄見えてくる生態系。草原や樹林地の昆虫の話は紙面の都合でカットしますが、狭い範囲で単純に考えず、調査と長い目で見ていくことが大切と思いました。

おまけの話 「減農薬のための田の虫図鑑」を読んだ感想

お正月に農文協発行の「減農薬のための田の虫図鑑」を読みました。「害虫・益虫・ただの虫」という副題がついています。水田の生き物の食物連鎖（相関）に感心してしまいました。農薬をまいたらイネの害虫を食べる虫もいなくなって、害虫が大発生するという話はわかりますが、ウンカ（小さな小さなイネの害虫）につく寄生虫やダニが、ウンカの繁殖を抑制する話や、同じ虫が益虫になったり害虫になったりなど、相関が単純ではないのです。また益虫でも害虫でもない「ただの虫」（全体の90%を占める）が、農業にただならぬ働きをしているとも評価しています。たとえば、イネの紋枯病菌を食べるトビムシ、泥の中の有機物を食べるユスリカ（その働きはミミズの的）など。農業にとってさえ、益と害に単純に分けられない、奥深いものがあります。木の葉の虫コブを切ってみて、いっぱい詰まっていたダニ（？）に驚いたことがありましたが、虫のお腹もムシコブのように膨れあがっていたり、宿主のお腹から頭をのぞかせている寄生虫の写真などは迫力があります。お米づくりの現場では、虫がいて、虫がいて、困っているのに、ビオトープにさっぱりいないように見えるのは、見方が悪いのか、いないのか、しんけんを考えたい。（坂本 郁子）

東京都の緑のボランティア交流会に参加して

11月16日、東京都環境学習センターで開かれ、私もはじめて参加させていただきました。

15団体（25名）個人会員約30名が参加。各団体5分間の紹介時間が与えられ、私も会の宣伝に努めてみました。

都内から4団体、他は都下郊外の方々でした。会それぞれが問題をかかえており、中には消滅しそうなところもあるようです。

共通の話題としては

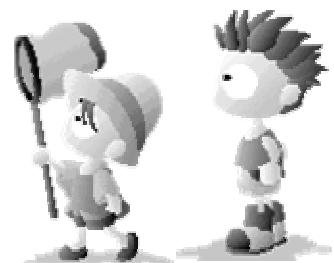
- ・ 周囲の人々への宣伝と理解の求め方
- ・ 会の運営または年間行事の予定を決めておく
- ・ 各関係機関との交渉の進め方
- ・ 高齢化の傾向にあるので、各地元でも若い人への参加呼びかけの努力など

なお、各会とも、常時の参加者は3～15名程度ようです。資料を30部用意しましたが、当会のが一番よかったようです（森 輝夫）

ホームページ再開できそう

<http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/>

このほどようやく再開にこぎ着けました。植田陽一さんが工夫された素晴らしいホームページの形を引き継いでいきます。



バッタ広場 植物のうつりかわり

2年半の移り変わりで、移り変わりと言っていいのか、よくわかりません。多分、自然の時計では、人間の「1日のできごと」を記録しているようなものかもしれません。でも、どんどん変化し続けています。

草を刈らない場所ができたのは2000年の4月、調査をしないうちに1年がたちました。翌年夏に島井先生に指導していただき、被度調査をしました。被度とは、地面がある植物で覆われている程度を表します。さまざまな植物が何層にもなって覆っている場合もありますが、見える植物だけでなく、その下に隠れている植物もかき分けて調べるのですが（ちょうど髪をかき分けてシラミを探すような感じ・・・やったことないけど）、けっこう楽しい作業でした。

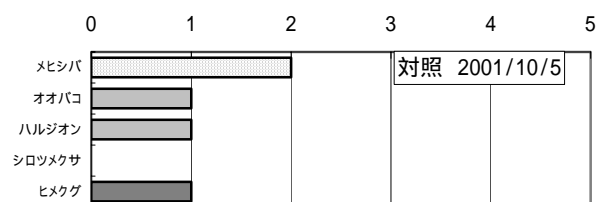
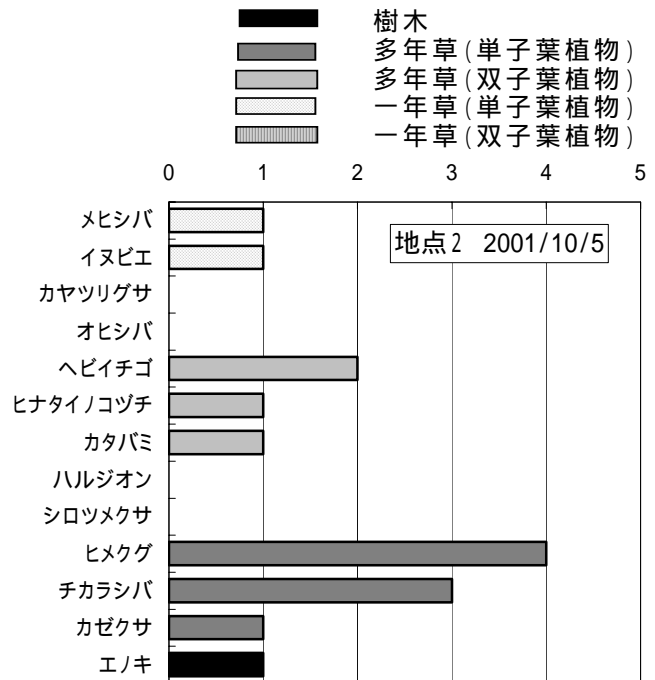
被度	5	4	3	2	1	+
	100 ~	75 ~	50 ~	25 ~	10 ~	1 %
	76 %	51 %	26 %	11 %	1 %	以下

被度調査は、2001年8月、10月、2002年7月に実施しました。被度調査をすると、その区間（2m四方）にどんな植物が多いかがわかります。

また、2002年10月には、バッタ広場の南北（34mあります）に糸を張り、その糸上の植物も記録しました。この方法では林縁にあたる場所と、草原の真ん中にあたる場所の植生の違いがわかります。

今回はその結果を一部ご紹介します。

ビオトープが出来る前の調査はしていません（残念）。下のグラフは草刈りした場所（対照区）です。上の地点2と比べて種類も少なく、被度も大きくないことがわかります。



2003年1月15日

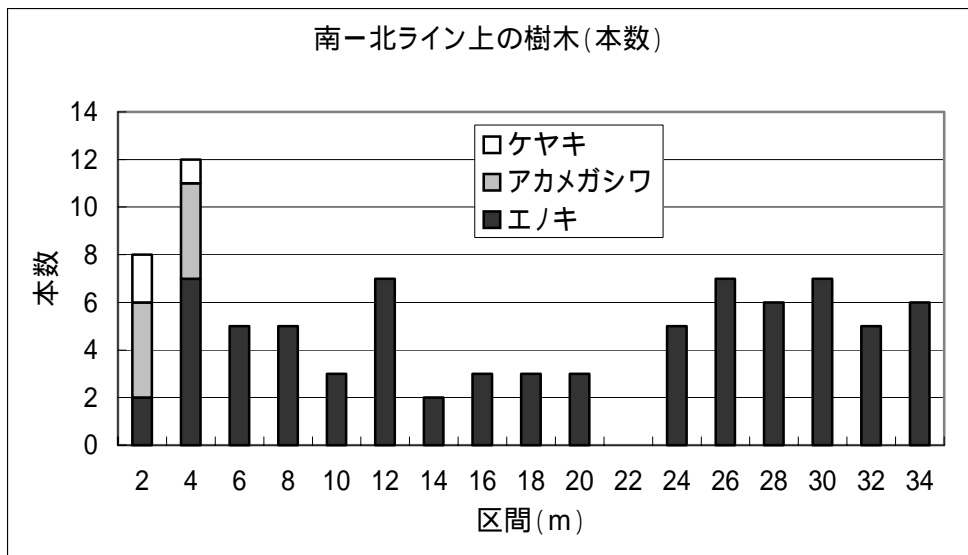
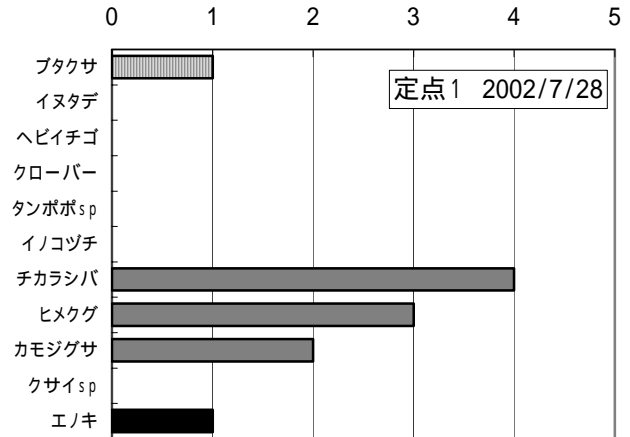
2002年になると優占種がはっきりしてきています。日陰のところ、草地の中央など調査地点によって植生が異なり、右のグラフは、草地の中央側です。

10月にはライン上の調査をしました。

下のグラフは南北ライン上の樹木の本数です。南北で34mあり、そのライン上合計73本のエノキが生えていました。

広場全体でいったい何本になるのでしょうか。全部が大木になれません。エノキの生存競争

を見届けたい気持ちもありますが・・・春頃までにこれまでの結果をまとめる予定です(坂本)



赤塚トンボ池と水路の維持管理について、 板橋区環境保全課と協定を結びます。

いたばし水と緑の会は、区民参加で赤塚トンボ池をつくるための赤塚自然回復検討会のメンバーとして、自然池のプランづくりに関わってきました。池が完成した後、当初は検討会のメンバーが引き続き管理に関わるようになっていましたが、ほとんど参加されず、結果的に「いたばし水と緑の会」が単独で、また環境保全課との共同で維持管理してきました。

このたび、役割を明確にするために協定書を取り交わすことになりました。内容は、水路と池の自然管理で、資材費は区で出しますが、管理作業にお金は出ません。無償です。

2003年1月15日

みずみどり第34号

活動のお知らせ

運営委員会は毎月第1金曜日です。興味のある方はぜひご参加ください。

2月運営委員会 日時：2月7日(金) 18:30~20:30 エコポリスセンター

1月運営委員会 日時：3月7日(金) 18:30~20:30 エコポリスセンター

会報の印刷・発送は奇数月の15日。お手伝いできる方は応援よろしく

日時：3月15日(金) 17:30~ 場所：エコポリスセンター

活動の問い合わせは瀬田まで(3969-7124)

毎月第4土曜日が定例の活動日です。この日は、赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に自然観察とゴミ拾い、その後必要な修理等の管理を行います。観察会は原則として雨天も実施します。

新年会 表紙をごらんください。

日時：1月26日(日) 13:00~16:00

場所：四葉集会所

赤塚トンボ池の水路の調査と管理方針の検討会

トンボ池と湧水水路の維持管理を正式にいたばし水と緑の会でやることとなります。湧水水路については、現状調査(測量等)を行い、午後はその結果をもとに今後の管理方針を考えます。

日時：2月1日(土) 10:00~15:00 雨天の場合は2月15日(土)

集合場所：赤塚トンボ池

講師・指導：水研クリエイイト(株) 尾坂 尚之

持ち物：長靴、軍手、弁当、飲み物

赤塚クリーンアップ

梅まつりの前に、池のゴミ等の清掃と赤塚城址斜面林の中のゴミ拾いをします。

日時：2月22日(土) 10:00~12:00 なお雨天の場合は23日(日)にします。

集合場所：赤塚トンボ池

持ち物：長靴、ゴム手袋、タオル

梅まつり

梅まつり会場で赤塚トンボ池と会のPRをします。昨年同様の工作を考えていますが、詳細は未定です。工作コーナーは例年にぎわってすごく忙しいので応援をお願いします。

日時：3月1日(土) 10:00~15:00

3月2日(日) 10:00~15:00

場所：赤塚トンボ池